

特集：『カナダ婦人宣教師物語』

—「物語」は続く—

山本 香織

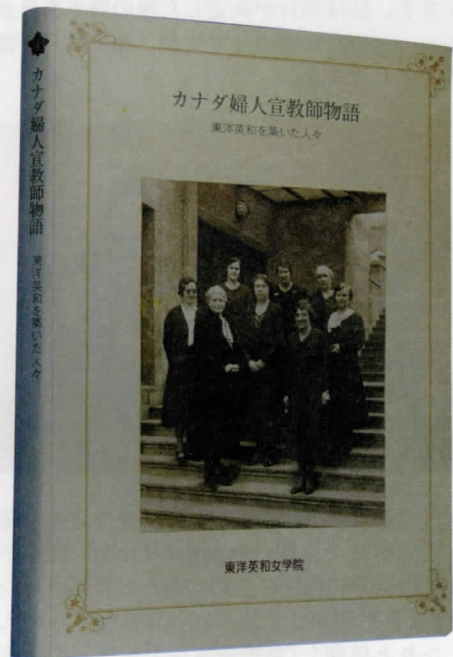
この本が生まれた意味

小学部の子どもたちは機会をとらえて教えられているので、1年生のときから東洋英和の創立者カートメル先生のお名前は知っています。さらに3年生の社会科で、「わたしたちの学校のあゆみ」を取り上げ、一通りのことを学びます。私が担当していた頃はその授業の中で、よくこういう質問を投げかけてみました。「初めてカナダから日本へいらっしゃる事が決まったとき、カートメル先生はどういうお気持ちだったでしょう。」

3年生の子どもたちなりに考えて、いろいろノートに書きとめます。「日本の人に神さまのことを伝えたい」「日本の子どもたちのために、学校をつくりたい」「日本はどんな食べ物か心配だ」「言葉はどうなるのだろうか」「日本の人となかよくできるだろうか」等々。それらを拾い上げ子どもたちと話し合いながら、学院誕生の頃についての学びを進めていきます。そのとき大切にしたのは、子どもたち一人ひとりがそれぞれカートメル先生になったつもりで考えることでした。

「120有余年の歴史の中でこれまでに年史は何冊も刊行されてきたが、建学の理念とそれを実践してきた学院の歴史の担い手たちのことは十分に伝えられてきてはいないのではないか」これは2007年7月にもたれた「第1回『カナダ婦人宣教師物語』編集委員会」において、委員長である吾妻國年副院長先生が語られた第一声です。そして本書の刊行目的が端的に説明されている言葉だと思えます。

東洋英和の在校生、卒業生、あるいは勤めている者たちは、どれほど宣教師の先生たちのお名前を知っているでしょうか。ミス・カートメル、ミス・ハミルトン…、2名は挙げられるか



表紙イメージ

もしれません。ミセス・ラージ、ミス・ブラックモア、ミス・クレイグ…、さらに3名以上のお名前が出てきたら上級者でしょうか。それでは名前だけでなくどういう人物なのか、どのようなお仕事をされた方なのかは答えられるでしょうか。

人物の名前を知っているだけ、年史が教える事項と年代を知っているだけでは分からないことがあります。しかもそれらが実はとても大切なものであり、私たちが知らなければならないものであるのです。「カナダの教会からいらしたカートメル先生が、東洋英和を1884年につくってくださいました」と子どもたちが教えられただけだとすると、それは知識にとどまっています。しかし3年生の子どもたちは、一人ひ

とりがカートメル先生になったつもりで考えることから、いくらかでもカートメル先生の思いを理解することができました。本書刊行の意図は、宣教師の方々が命がけて伝えようとしたことを、未来に伝えるために知ることであると思っています。

そのように年史では知り得ないことをまとめる、これが一番大きな目的であり、そのことを長い間切望してこられた多くの方々の思いがあります。しかしそれ以外にも、この本を出すにいたるまでのいきさつ、編集意図がいくつかあります。私は刊行が決定した後の編集委員会に加わっていただけの者ですが、知る限りを書き残しておきます。



- \* 「敬和会」（中高部母の会聖書の会を母体とし発足）の会報『敬和会』（1970～1997年まで計61号刊行）に21回にわたり特集された、「カナダ・メソジスト教会宣教師—その人となりと信仰」（長野彌院長先生ほかの執筆）は貴重な記録であり、1冊にまとめたいという思いが関係諸氏の間にあった。
- \* 創立以来いつも必ずいってくださったカナダからの宣教師の先生が、2006年のポール宣教師を最後にいらっしやらなくなった。東洋英和のこれからの世代の者たちにも、カナダ・メソジスト教会とのつながりを身近に感じ続けてほしい。
- \* 現在ならば、まだ宣教師に直接教えを受けた教職員、卒業生からの証言を聞きながらの執筆、編集ができる。
- \* 高校生が読めるくらいの平易な内容とし、レイアウトも親しみやすいように工夫して、英和に連なるなるべく多くの方々に手に取り読んでもらいたい。

## 物語は続く

私たちはそれぞれの小さな物語をもっています。それは個別の歴史に基づいているのですから一人ひとり異なります。また本やテレビや漫画やコンピューターゲームなどがあふれんばかりの数の物語を提供しています。しかしそれら無数の小さな物語とまったく違う次元に「大いなる物語」があることを私たちは知っています。それは神様の救いの物語です。私たちに生きる意味や帰るべきところを示し、人々を結びつける力を持っている物語です。

かつてイスラエルの人々は繰り返しその物語を聞き、物語に育てられ、やがて自分が語ってきました。東洋英和の学院標語「敬神奉仕」の元となった申命記の御言葉があります。「聞け、イスラエルよ。我々の神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」（6：4、5）これに続くのは、この大切な約束を忘れないためにどうするかを示す教えです。「子どもたちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。」（6：7）

神様の大いなる物語は語られ続けなければなりません。そうすることで、神様が私たちに生きて働かれるのです。

この本の書名は『カナダ婦人宣教師物語』です。これが決定されたのは編集委員会においてですが、どうすれば本の意図を短い言葉で明快に表せるか、本の背表紙に書かれたときのイメージにいたるまで議論を重ねたことを覚えています。『祈りの人々—東洋英和をめぐる宣教師』、『信仰に導かれて—東洋英和を築いた人々』、『The Book of Missionary—カナダ婦人宣教師の人となりと信仰』などなど多くの案が出まし





た。私は「物語」という語にこだわっていただけで、このタイトルに決まって満足していません。それは難しい歴史書ではなく、物語感覚で読める手にとりやすい読み物である、ということを表しているからだけではありません。神様の大きな救いの物語のことを思っていたからです。お一人お一人の宣教師の先生方の思想、生き方を通じて語られているのは、神様の大きな物語です。そして大切なのは、その神様の物語は過去のお話として「聞く」ものであるだけではないということです。神様の救いの歴史はまだ終わっていないのですから、大きな物語は未来に向かって今も進んで行っています。そしてその物語は、語られるときに生きて働く、という力のあるものなので、聞く者自身がその物語の中に生かされ、育まれるのです。

神様の大きな物語の中に生きた宣教師の先生方の「物語」を読むということは、すなわち神様の物語を聞き、私たち自身が生かされることであると思います。さらに「子どもたちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい」と教えられているように、「物語」を語り続け、未来に伝える使命をいただくことでもあります。

### ぜひ読んでください

東洋英和がこれからどういう歩みを続けていくか、どこを目指していくのか、その指針を与えてくれるものは「建学の精神」であるはずですが、しかし「建学の精神」を本当に理解するのは、実は難しいことであると思います。この

「物語」は、そのために大いに役立つのではないのでしょうか。私自身、東洋英和について知らなかったことがあまりに多くありました。この小さな本ではまだまだ表しきれないのですが、私はこれを読んで宣教師の先生方の生き様、お心に触れることができました。そして神様の物語を未来に伝えなければならない使命が私たちにあることに気づかされ、思いを新たにしています。

出版日は当初創立125年目の創立記念日、11月6日あたりを目指していたのですが、少々遅くなり、来年3月になりそうです。どうぞその折には、ばらばらとページをめくり写真を見るだけでなく、ぜひ最初から最後までお読みください。

この本を手にとった方全員が読んでくださったら、未来の東洋英和の行き先がしっかりと定まると思います。

(小学部部長

『カナダ婦人宣教師物語』編集委員)



# 『カナダ婦人宣教師物語』 編集にあたって

## 目次(予定)

序
目次
1章「楓の園」の誕生 —東洋英和の礎を築いた宣教師
・カートメル [コラム] カートメルの聖書
・ラージ
・ブラックモア [コラム] 村岡花子と『赤毛のアン』 [コラム] ミス・ブラックモアの「60の英文」
・マンロー [コラム] 孤高の歌人 片山廣子
・クレイグ
・ハミルトン [コラム] 神の国の実現をめざして(ヴォーリス) [コラム] 野尻キャンプサイトへの思い
2章「道ある学び舎」 —敬神奉仕に生きる
I 保育者養成の礎を築いた宣教師
・デウォルフ
・ドレーク
・ステーブルス
・レーマン
・キュックリヒ
・ローク
・スクルトン
・ハミルトン(保育科主任として) [コラム] (バット博士) [コラム] (ストーン牧師)
II 戦後さらなる高等教育への道を開いた宣教師
・コーテス
・サティ
・ダグラス
・マシューソン
・ジュティーン [コラム] 長野彌院長 カナダへの感謝の旅
3章 論文とエッセー
(論文)カナダ・メソジスト教会宣教の系譜から (論文)宣教師が東洋英和の教育に残したもの [エッセイ]共に過ごした日々 (ロジャース先生とブラウン先生)
資料 宣教師リスト 東洋英和の歴史一年表 参考文献
編集後記

〈編集委員会メンバー〉

◎吾妻國年、島 創平、伊勢紀美子、水谷 悟、山本香織、谷川祐子、松本郁子、田原綾子、酒井ふみよ  
顧問：五味澄子、芝 恭子、朽木久子  
編集協力：新富英雄

東洋英和の基礎を形づくった宣教師の先生方はどんな方だったのでしょうか。どんな思いで困難と闘い、異国の女性たちのために教育の場を創り上げ、育てられたのでしょうか。…そして私たちはこの東洋英和をどう引き継いでいけばよいのでしょうか。そんな問いを考えようと、企画された本です。

来年3月刊行をめざし、編集委員会は下記のように活動してきています。

- 第1回(2007. 7. 6) 編集方針 協議・決定
- 第2回(2007. 9. 10) 構成 協議
- 第3回(2007. 10. 1) 同上、執筆分担
- 第4回(2007. 11. 19) 出版社・体裁 決定  
[史料室より]史料を執筆者に提供  
2008. 3月：委員4名でジュティーン先生インタビュー
- 2008. 5月：吾妻委員長 カナダ出張、史料収集
- 第5回(2008. 5. 26) 構成 一目次決定
- 第6回(2008. 7. 14) 書名・表紙デザイン・コラム 決定  
2008. 9月末：原稿締め切り
- 第7回(2008. 10. 6) 委員による原稿は7割がた提出。コラム、表記の確認  
[編集部]統一感をもたせるための書き直し開始。  
写真選定
- 第8回(2009. 1. 19) 出版社より初校提示  
[編集部]校正、史料確認開始
- 第9回(2009. 4. 17) 諸項目変更など検討
- 第10回(2009. 7. 24) 原稿最終提出、刊行時期延期決定  
[編集部]全体校正開始
- 第11回(2009. 10. 2) 構成一部変更
- 第12回(2009. 11. 5) 口絵・表紙・紙質 決定

なお、来年度より、高校生および大学1年生はこの本をテキストとして使用します。また頒布方法については、ホームページ、学院報「楓園」および次号にてお知らせします。

どうぞ刊行をご期待ください。

(『カナダ婦人宣教師物語』編集委員会編集部  
：酒井ふみよ)

## 神と人と日本に献げた生涯—G.E. キュックリッヒ先生

小島 富美子

G.E. キュックリッヒ先生に出会ったのは東洋英和。保育専攻部の二年生の時でした。毎週金曜日の午後の授業を楽しみに待っておりました。“Good Afternoon, Miss Kücklich” に始まり、先生の御体形から出る「こ、にちは みなさん」の太いお声。私達は待っていましたとばかりにキラキラと目を輝かせ、先生の口からほとぼしる流暢な日本語を聞き漏らすまいとクラス中が一つになった時間でした。K先生の語られる日本語は下町語。「父ちゃん、母ちゃん」と、ユーモアを交え、激動の日本の戦前・戦後を共に生きた、現場体験のリアリティが、聞く者の心を打つのでした。

そして卒業を前に国領・憩の家のカンファレンスに参加した29名の私達は、心を捕える先生の激励に酔いしれてキリスト教保育の心を篤くし、幼児の世界へと飛び立ったのでした。

私は1949（昭和24）年4月加須の地に赴任し、先生の元で働くことになりました。そこは関東平野の一画、面々と続く麦畑で東京の生活を恋しく思ったことも本音でした。当時先生は55、6歳。その2年前に加須に着任され、「愛の泉」の事業に着手、体当たり。その情熱に励まされた教え子、関係者が事業に携わることになり、一心同体、共に働くことに誇りを感じる毎日でした。

当時の「愛の泉」は貧しく（日本中がそうでした）、物資が欠乏し空腹の毎日でしたが、先生も、子ども達や私達と共に夕食のうどんをすすっておられました。そんな極貧の時代にも、子ども達へ深いまなざしを注いで生きることを共にし、同労の私達にも心豊かなドイツ的な生活感覚を無言の中で体で教え、語り示して下さいました。

生活の中には、いつも音楽がありました。先生を慕って集った者達、東洋英和の先輩達も数人あり、朝に夕に讚美し、楽器に合わせてハーモニーを取りながら仕事に精出し、歌いながら次のステップへと、歌は働く原動力となりました。この5年間は、今も私の生きる支えとなっています。

一年の営みもクリスマスやイースターを中心

に教会暦に従った生活でした。生活の中に教会暦が浸透し、いかに御降誕を迎え、甦りの主と共に新しい命に生かされるかを、身をもって具体的に知ることが出来ました。

戦後の混乱期はたくさんの孤児や混血の子ども達で賑わいました。先生は家庭のない、家族を失った子ども達のママちゃん。私達は「ママさん」と呼ぶ先生は、昼夜を問わず働かれました。そして休息しようとしているかのように、椅子に座って祈る姿がそこそこにあったことが、今も目に残っています。毎週保育者養成の為、東洋英和に草苑学園に、また日本のキリスト教伝道のために、特に教会婦人を激励し、全国各地へと飛び廻られました。

第一次世界大戦後の1922年に来日以来、神と人と日本の為に生涯を献げられました。今も加須の地で永遠の腕に抱かれて眠り、祈っておられることでしょう。

家庭が壊れ、教会生活が軽んじられ、格差社会の現代日本。後に続く者が求められる時代が、再び来ていると思います。

（1949年保育専攻部卒 キュックリッヒ  
記念財団理事長 若葉幼稚園園長）



### キュックリッヒ先生略歴

(Gertrud Elizabeth Kücklich)

1897年12月25日	南ドイツ・シュトゥットガルト市に生まれる ペスタロッツ・フレーベルハウス、南ドイツ高等師範学校卒業
1922年	来日
1937～1950年	東洋英和幼稚園師範科専任教員、のち短大保育科教授
1945～1976年	戦災孤児の家「愛泉寮」開設に加わり、以後「愛の泉」の中心的役割を担う
1976年1月2日	日本にて逝去（78歳）

## 〈資料紹介〉 16

### 「野菊の路」と水野菊子氏

東 夏子

水野菊子氏は明治38(1905)年に東洋英和を卒業し、明治40年頃から大正3年までの7～8年間母校で教鞭をとっていた。教師を辞めた後、大正15(1926)年11月3日に逝去された。「野菊の路」は水野菊子氏の綴った日記の一部を実妹である大久保信子氏(1912年卒)がまとめて1937年に小冊子の形にしたものであり、姪の山川澄子氏(1945年卒)により本年4月に史料室に寄贈された。

#### 麻の花会

水野氏は「麻の花会」結成の中心人物でもあった。『東洋英和女学院百年史』の同窓会の章631ページにはその経緯が書かれている。以下『百年史』によると、「麻の花会」とは、1918(大正7)年にミス・ケギーがシベリアへ兵士慰問のために赴いた際、彼女を送迎した11名の同窓生が、その機会に修養の会を作ろうと、水野菊子氏を中心に集まった会であった。名称は、麻布から一文字をとり、Little Church in Homeの頭文字を用いて、「麻の花L・C・H会」として発足した。定期的に聖書研究・読書・レコード鑑賞会を開くほか、学校の募金・社会福祉事業に積極的に貢献してきた。水野氏の永眠後、しばらく会は活動を停止していたが、第二次世界大戦後、水野氏の実妹大久保信子氏により活動を再開、約20名の小さな集まりであったが、1981年5月に解散するまで月一回の集会を続けて母校を支えた。ブラックモアの篤い信仰、教育理念、加茂令子舎監の厳しい躰が、会員の心のなかに終生生き続けていたことが窺えるのであった。

#### 「水野さんを偲ぶ座談会」

水野氏については、『東洋英和女学校五十年史』にも「水野さんを偲ぶ座談会」と題して宮城春江氏によって記された記事を見ることができる(230ページ)。出席者は実妹の大久保氏を始め、村岡花子氏(1913年卒)や「麻の会」会員など11名であった。40歳前に亡くなった水野



氏の早すぎる死を悼んで行われたこの座談会は、1933(昭和8)年11月に堀房子氏の家で催されている。堀家の二階からは、水野氏の「御居間であり、戦闘の場でもあった」部屋が真向かいに見えたという。この座談会から、水野氏の人柄を垣間見ることができる。

まず「先生としての水野さん」について語られている。厳しく、優しく、「教育に熱があった」こと。水野氏の地理の時間には面白くて皆夢中になったこと、詰め込みではなく、引き出す教育をしていたこと、氏の人望に対する嫉妬や、はっきりものを言うので、誤解されることもあったこと、などが語られている。

次に「人としての水野さん」について語られている。小学校を出て英和に入って「きかん氣」だったのがずいぶん変わったという。体が弱いのにいつも人の事を考えていたこと。前出の「麻の会」を初め、イングリッシュ・スピーキング・ソサエティーや読書会など、いろいろな会を始めたこと。手紙をよく書いていたこと。「大層宗教的でありながら、少しも宗教臭くなくて常識的」であり、「人の気持ちや苦勞のとてもよく解る方」であった。「お弱いのに、ほ



んとに生活を喜ばれました」「御病氣の時お見舞に上つて、反つて慰められて歸りました」

「だからあらゆる種類の人をひきつけたのでせうね。あの方が亡くなつたことは、英和にとつては大きな損失と思ひます。」(村岡氏)

この座談会から、教師として、人間として慕われていた水野氏の人柄が窺われる。

### 「野菊の路」

「野菊の路」は最初のページに水野氏の写真が載せられ、亡くなって満十年になるのを記念し、故人の信仰生活の一端を紹介したい、とまとめたものであることがはしがきに書かれている。大正2年、大正9年後半～11年、そして「召される年」と題して大正15年の4月～10月19日までのものが載せられている。亡くなる2週間ほど前の日付である。

最初の日付は英和の教師時代である大正2年の元日である。日記はところどころに英文があり、宣教師の名前も見られる。4月17日には「ミスブラックモアの歓迎會に出席」とある。また、信子氏のことを「信さん」とよび、「信さんの受洗日として長く記憶される日」「信さんの結婚の日」など、妹に対しての美しい思いが読み取れる。

(麻布)十番でひな祭りのための人形を買つて帰り、子どもたちが大喜びしたこと、入学したての子どもに泣かれて閉口したこと、その子が歌を歌ったり、神様の話を聞いて真面目に考える様子を可愛く思っていることなどが書かれ、英和の子どもたちへの水野氏の暖かい思いが読み取れる。

年が進むにつれ、病のこと、信仰のこと、自分を振り返る思い、家族や友人へ寄せる思いが書かれている。病の中で水野氏がどんなことを考えておられたのか、印象に残ったところをいくつか引用させていただく。

「今日も晴、でも私の體は相變わらずだ。(～中略～)でも、今は淋しいとは思はない、私の力のつゞくかぎりをして次の世に入るつもりだから、何を怖れよう。(大正10年8月12日)」周りの人間についての厳しい言葉も見られる。「誰も彼も人前だけい、事を言つて、うそのかたまりと云ふ氣がする、誰も信じられない氣がする、自分だけと云ふ氣がする。(同年8月21日)」「友達つて面白いものだ。敵は友の中にもある。敵の中にも友達はある。(同年11月1日)」

大正11年になるとますます病についての記述がふえる。「私は本當に、此世を去る覺悟をした。悲しい事でもなく、淋しいことでもない、これからが人間の眞實の世界だと思へば、晴れの旅立のはづだ。(7月11日)」「私は出来るだけの時間をつくつて、お友達に手紙を書いて行き度い。(同日)」と書き、宣教師を始め、友人など40名ほどの名が上げられている。

「召される年」と題される大正15年になる。4月2日に「今年はじめての散歩をする。」とある。だいぶ病が進んできたのだろうか。「誰も遠方へ旅立たれる方は私に逢つて行かれる。最後になると云ふ豫想は両方にある。(8月26日)」との記述はなんとも切ない。家族のこと、とりわけ病床のお父様のことによくふれている。お父様の新しい看護婦がクリスチャンであることを知ると、「私も喜ぶ、何を祈り求めてみたか？父上にキリストの心を傳える人を待つてみたのだ。(10月10日)」と喜んでいる。そして10月19日「今日石灰變性が痰と一緒に出る。だるい、手が動かない、ねむい、痰が出る、よく食べる、書く氣がしない。父上はまづよい方だらう。」の文を最後に日記は途絶えている。この11日後の30日から、同様に臨終の床についていたお父様のことを案じて食べられなくなり、11月3日に召天された。まさに絶筆である。

東洋英和の卒業生として、教師として自らの生を走り抜けた水野菊子氏の日記である「野菊の路」を通して氏の母校・友人・家族・そして神への思いにふれることができた。寄贈して下さった山川澄子氏に心からの謝意を示したい。

(小学部教諭 史料室委員)

## 学院史料展示コーナー紹介

### 祈りの建築 —ヴォーリズが東洋英和に残したもの—

学院史料展示コーナー（本部・大学院棟1階ロビー）では「祈りの建築 ヴォーリズが東洋英和に残したもの」を展示しています。

長い年月、鳥居坂のシンボリックな存在として親しまれてきた東洋英和の旧校舎が取り壊されてから10年以上の歳月が流れました。その旧校舎と東鳥居坂町二番地にあった宣教師館などを設計したのがウィリアム・メレル・ヴォーリズでした。ヴォーリズの建築事務所が開業されてから100年にあたる昨年より、全国各地で大規模なヴォーリズの回顧展が開かれていたことに合わせて、東洋英和でも史料展示と学院報「楓園」での特集を企画しました。

実際にはもう存在しないヴォーリズ校舎の当時の雰囲気を少しでも伝えるにはどうすればいいのか、模索するところから展示計画はスタートしました。

まず、旧校舎の残された品々がどれくらいあるのか探索です。史料室には照明器具と大講堂の天井パネル、そして定礎の奥に埋め込まれていたブリキの函がありました。この中には当時の聖書や学校の沿革書、新聞、設計図面などがきれいに納められ、残されていました。

さらに中高部地下倉庫にまで探索の足をのびました。そこには大講堂の壇上の椅子をはじめ階段の鉄のフレーム、タイル、瓦、そして英和生の大好きだったガラスのドアノブが保管さ



旧校舎のブラケット照明。パナソニック電気汐留ミュージアムの「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ 恵みの居場所をつくる」展に貸し出すにあたり、修復していただきました



れていました。

次には写真の検索です。史料室には建設の様子を追ったアルバムが残されていたので、その中からヴォーリズらしき人物のピックアップをし、また、学院報「楓園」に取材協力してくださった近江兄弟社学園からいくつかのヴォーリズ画像をお借りしてパネルを作成しました。同窓生の中郷信子氏所蔵のヴォーリズのプレートなどをお借りすることもでき、上野美代子元同窓会会長とヴォーリズとの意外なつながりなども紹介させていただきました。

こうして今回の展示が完成しました。限りある展示スペースなので、写真や断片的な資料からだけではとてもヴォーリズ建築の魅力を伝えきれませんが、見学に来られた方は、同窓会による素晴らしい旧校舎の記録書『鳥居坂わが学び舎』を開くことによってさらに旧校舎への理解を深められたことと思います。校舎解体時、記録を残すことにご尽力くださった同窓生の方々の偉業に改めて敬服するとともに感謝いたします。

今回の展示で新たによみがえったものにヴォーリズ作詞による英語校歌があります。これは中高部合唱部の協力を得て、1934年のオリジナル版、富岡正男先生の作曲による1969年版のふたつのバージョンを録音しました。展示コーナーにて、もしくは学院ホームページトビックスからご視聴いただけます。

この展示を機会に、東洋英和とヴォーリズとの関係史料を体系的に整え、充実を図ることができました。

展示期間は当初2009年4月から8月末までの

予定でしたが、好評につき、外部から戻ってきた史料との差し替えなども行い、2010年3月末まで延期しています。六本木にいらっしゃる際には是非お立ち寄りください。

(院長室広報担当：松本郁子)



牧野安子氏が校舎解体の際に保存され、修復・額装の上、学院に寄贈して下さった大講堂の天井パネル

## 史料室の活動より (2009年2月～8月)

- 2月・山梨英和学院へ、年史作成のため創立の頃の関係者写真を提供
  - ・中高部地下倉庫にてヴォーリズ校舎の品々を探索、数点を移管する
  - ・パナソニック電工汐留ミュージアムへ、ヴォーリズ展のための資料数点貸出し
- 3月・史料室だより72号 発行
  - ・照会— I氏より、母親が小学科に在籍したかどうか(伯母様の在籍は確認)
  - ・照会— 中学部北崎教頭より、「敬神奉仕」の標語制定の経緯
  - ・照会— 松縄善三郎氏へ、ミス・ウィンターミュート他の宣教師の資料を提供
- 4月・新任者へ学院史料展示コーナーにて学院の歴史ガイダンス(史料室委員 谷川)
  - ・学院史料展示コーナー展示替え 「祈りの建築 —ヴォーリズが東洋英和に残したものだもの」
  - ・来室— 本井富士子氏 義母本井森子氏のアルバムほかを寄贈下さる
  - ・第9回『カナダ婦人宣教師物語』編集委員会
  - ・照会— 麻布学園高校水村先生より、明治30年代の原資料の有無、東洋英和学校の歴史などについて
  - ・来室— 山川澄子氏(1945年卒) 旧教員水野菊子氏の日記ほかを寄贈下さる
- 5月・来室— 大学のSippel教授 カナダ人宣教師と日本の交流について調査(数回)
  - ・照会— 中高部遠藤洋子先生より 1965～1969年の中高部教員のリスト。生徒・保護者名簿よりコピーして提供。
  - ・来室— 坂本勝比古氏 元同窓会会長五味澄子氏にインタビュー。戦前の麻布周辺の邸宅研究
  - ・照会— 松縄善三郎氏へ、ミス・ブラックモアの資料を提供
  - ・ヴォーリズ作詞の英語校歌を中高部合唱部に歌ってもらい、録音、CD化(120枚製作)
  - ・来室— 小学部母の会新聞部より「ぎんなんだより」取材。制服制定の経緯について
- 6月・来室— 京都大学大学院生小野氏 戦前の

- ミッションスクールにおける「作法」の授業の歴史について研究
- ・来室— 生涯学習センター受講者伊東氏 元同窓会会長上野美代子氏について調査
- ・来室— 中学部部長鈴木齊先生 今年の創立記念週間中高部展示テーマ「奉仕」にまつわる資料の検索、相談
- ・同窓会総会時、保育部会へ「史料室だより」71号・72号残部を希望者に提供
- ・小学部部長山本香織先生へ 旧校舎ヴォーリズ設計図のコピーを提供
- ・来室— 元職員木島伸子氏 追悼記念日礼拝プログラム、本部報、学院報閲覧
- ・小学部部長山本香織先生へ 同窓会会報昭和7年版 榎村辨市先生の記事を提供
- 7月・パナソニック電工汐留ミュージアムより、ヴォーリズ展のため貸出した資料返却
  - ・来室— 中高部武田ゆり先生 永坂孤女院、赤い靴のきみちゃんについて調査
  - ・「楓の会」発足のため関係者連絡先等調査協力
  - ・第10回『カナダ婦人宣教師物語』編集委員会
  - ・照会— W氏より、片山廣子訳 バーナード・ショー戯曲「船長プラスパウンドの改宗」所蔵の有無(回答：所蔵せず)
  - ・元同窓会会長 五味澄子氏来室 メール会記録を寄贈される
- 8月・教文館にて開催のキリスト教学校推薦図書フェアにて書籍購入
  - ・中高部地下倉庫にて、教務課整理中の作業状況を見学、ダンボール箱約10箱を史料室管理として確保。主に旧聖書科研究室所蔵記録
  - ・画家小阪謙造氏よりヴォーリズ校舎写真資料提供の依頼—ヴォーリズ建築のスケッチ画作成のため。コピー数点他提供
  - ・来室— 元中高部教諭秋葉明子氏、鳥居美子氏。1952年卒学年クラス会記録を寄贈下さる

## 主な寄贈資料

- \* 『鳥居坂教会創立125周年を迎えて』
  - \* CD「Toyo Eiwa School Song」(かつて富岡正男先生が録音した英語の校歌のデジタル化)
  - \* 本井森子氏(1930年卒)所蔵品(アルバム2冊、学籍簿2冊、通知簿2冊、写真、作品、論文、*A Tale of Two Cities*)
  - \* 武内ちとせ氏(1933年卒)所蔵品(成績簿、通知簿、校舎落成記念文鎮)
  - \* 「Music for Children」 「Music for Children Book II」(東洋英和幼稚園師範科編)
  - \* 1944年卒業式プログラム
  - \* 「野菊の路」水野菊子著(日記)〈p.6-7参照〉
  - \* 山川澄子歌集『辛夷咲けば』石川書房『喜びの風』柘書房(1945年卒)
  - \* 『新折々のうた』9 岩波書店
  - \* 『水野葉舟歌集 滴瀝』古川書房
  - \* 『東洋英和女学校五十年史』
  - \* 『自殺する種子 アグロバイオ企業が食を支配する』安田節子著(1966年卒)平凡社
  - \* 『あの夏の光のなかへ』近代文芸社『地中海のほとり』朝日新聞社 牟田口義郎著(名誉教授)
  - \* 『お受験の社会史 都市新中間層と私立小学校』小針 誠著 世織書房
  - \* 『ヴォーリスの西洋館 日本近代住宅の先駆』山形政昭著 淡交社
  - \* 『近江の兄弟』吉田悦蔵著 近江兄弟社
  - \* メープル会記録(1956年小学部母の会有志OG会)
  - \* 「教会に支えられて」速水 優著 阿佐ヶ谷教会
  - \* 『勘九郎日記「か」の字』中村勘九郎著 集英社
  - \* 1952年卒業学年クラス会資料
  - \* 『慶應義塾史事典』『写真集慶應義塾150年』
  - \* 『山形学院百年誌』
  - \* 『宮城学院最近10年史 1997—2006』 「宮城学院資料室年報 第14号」 「同 15号」
  - \* 『全国大学史資料協議会東日本部会 二十年の歩み』
  - \* 『明治学院歴史資料館資料集』第6集
  - \* 「あゆみ フェリス女学院資料室紀要」 2009 62号
  - \* 『東京女子大学の90年』 「東京女子大学創立90周年記念 東寮・旧体育館写真集」
  - \* 『山梨英和学院120年史』
- その他 他大学年史紀要 多数

## 購入資料

- \* 『日本の幼児保育につくした宣教師』下巻 小林恵子著 キリスト新聞社

- \* 『明治学院人物列伝—近代日本のもうひとつの道』新教出版社
- \* 『学舎はのびのびと楽しく—帰国子女教育の50年』本間平安子著 御園書房
- \* 『女子学院の歴史』
- \* 『白いリボン—矢嶋楯子と共に歩む人たち』間野絢子著 日本キリスト教団出版局
- \* 『まことの人の輝きを一同窓生が辿る女子学院と同窓会の歩み』女子学院同窓会

## 製作資料

- \* CD「TOYOEIWA SCHOOL SONG」(ヴォーリス作詞の英語校歌) 中高部合唱部による合唱

## 移管史料

- \* ヴォーリス校舎の品々…屋根瓦 2枚、ガラスドアノブ 2個、ガラスドアノブセット 2組、ドアの鍵 9本、タイル(茶色 5枚、薄緑のマーブル 5枚)、大講堂天井パネル(ピンク2枚・青2枚・端1枚)
  - \* 旧校旗
  - \* アルバム 8冊…長野彌先生送別会(1971 or 1972) / (学校生活)(戦時下?) / 運動場落成記念(1942) / (学校生活)(1935から1936頃) / (学校紹介・日本紹介)(1959頃?) / 高三修養会(1969) / (東京体育館での競技大会)(1980年代中頃) / クラス発表会、第6回中学部合唱コンクール(同上)
  - \* 卒業アルバム 8冊(1936、1937、1939、1942、1944、1969、1974、1975)
  - \* ファイル(1968年母の会プリント類)
- 以上 中高部地下倉庫より
- \* 『テレビ業界で働く』なるにはBOOKS 6 小張アキコ(1977年卒)・山中伊知郎共著 ぺりかん社
  - \* 『愛 わがプレリュード カナダ人宣教師G.E. バットの生涯』新堀邦司著 日本基督教団出版局

以上 中高部図書室より

〈訂正とお詫び〉

No.72の4頁、大中寅二先生の略歴中6行目 東京高等音楽院「卒業」ではなく、「にて教鞭をとる」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

〈お知らせ〉

学院の歴史や学生生活を知ることのできる資料、写真、記念品等でご不要のものがございましたら、どうぞご連絡ください。

お問い合わせ先は下記の通りです。

東洋英和女学院史料室(法人事務局内)  
TEL03-3583-3325(代) FAX03-3583-3329(直)  
E-mail:archive@toyoeiwa.ac.jp